

---

## Just Be Friends by.友厨

・・・友達が厨二病でうざいのであいつが書いたのを貼る

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

Just Friends by・友厨

### 【ZPDF】

Z7091P

### 【作者名】

・・・友達が厨一病でつざいのであいつが書いたのを貼る

### 【あらすじ】

クリスマス企画！

二次創作だけど純愛に挑戦！！

……下手です。すみません

（ちなみに、作者は騒動とかは無視しているので、御気分を悪くされた方は報告して下さい。即刻消去します）

(前書き)

えと、友達君のやつ先に読んでない方は、そつちを先にじぶん。

……さて、愚痴りましょうか。

本当は復帰作として、殺人系書きたかったのだが、あいつが無理矢理「頼む」つて……。

確かに俺のは女性視点が多い。だからといって恋とか俺に無縁な物を書かさないで欲しい……。

はい、すみません。本編をどうぞ。

目が覚める。

身体も心もズタズタだ。

散らかったこの部屋を見ると、それが夢じやないという証拠がある。

理由は簡単だ。私がかんしゃくを起こしたのが間違いだった。

いつも、私がわがままを言って彼を困らせる。

もう一度、部屋を見渡すと小さな血の痕があつた。側には血がこびりついた花瓶の破片。

いつもそうだ。私が彼を傷つけてばかり。

青く重たいカーテンを思いつきりこじ開けて、太陽の光を浴びる。光を見れば見るほど、すこし前の頃を思い出してしまつ。

笑顔が光っているね。って言われたあの時。

初めて手を繋いで、少し気まずかつたあの時。

遊んで遊んで、最後に夕日を見ながら帰ったあの時。

光を見れば、届かないと分かっていても手を出してしまつ。それが余計に心を沈ませる。

彼の温もりを求めて振り返ると、いつものように机の上に置いてある朝食が、いつもより冷めている気がした。誰かに会いたい。

急にそんな思いに駆られた。

急いで朝食を食べて、顔を洗つて、少しメイクして、靴を履いて外に出る。

太陽は周りの家より少し上の所にある。時計は見てないけど、多

分お昼前。

あれ？ お昼前なのに人が多い気がする。

そう言えば今日はクリスマスだった。

誰かと一緒に歩きたい。一緒に過ごして、夜に一人きりでずっと寄り添つてみたい。

でも、そんなことしてくれる友達はない。みんな他の人と予定があるし、私に構ってくれない。

おもむろにため息をつく。それでも何にも変わらない。

いつのまにか、町のショッピングセンターまで来ていた。だけど、隣にいるはずの彼はない。

会いたい。

その焦がれる気持ちは、疑問に変わっていく。

ずっと一緒にいたいのは、彼を束縛したいから？

彼をずっとつなぎ止めてしまったのは、私のエゴ？

動き出した疑いの心は、どんどん心を浸食していく。

そんな心を消そうと、必死に頭を振る。

周りから見たら病んでるかも知れない。いや、本当は病んでるかも。

どんどん自分を責めている。もうやめなきや。

これ以上に考えたくないから周りを見る。

幸せそうなカップル。見ているだけで羨ましくなっちゃう。

結局、寂しいままで夜まで過ごしてしまった。

とりあえず、家に戻る。

玄関に入り、靴を脱ぐなり彼は急に

「話があるんだ」

いざれ来ると思っていた言葉。でも、まだ……。

「何?」

予想はしてこのに、聞いてしまつ。そんな自分に馬鹿らしさを感じちゃう。

「お前との関わり方が分からなくなってきた……、いや、理由なんか関係ない」

彼は一拍置く。

その間が、私にはとても辛くて……

「もう……、別れよう。俺たち」

とつぐに来ると分かっていた。

でも、その言葉が我慢していた涙を押し流した。

「まあでも、友達からやり直したいだけな?」

そんな言葉も心に届かず、

どんどん、涙が溢れて……。

止まらない。違う。止めない。

でも、心を決める。

「いいよ」

私は、涙を拭いて笑顔で言つてやる。

「また、友達からお願ひします」

今度は、じつから振り向かせてやる。

(後書き)

多分、貴方がこれを読み終わった時には友達君は死んでいることでしょう……。

冗談です。

でも純愛は一度とやりたくないません。苦手です、普通の人は。どこか壊れた人間が好きだけさ……。

つてか一人で色々やるのが楽しかった。終わり。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7091p/>

Just Be Friends by.友厨

2010年12月31日05時34分発行